

／ ライフケアサポート情報誌 ／

こもれび

K O M O R E B I



特集

利用者様の素敵な笑顔に支えられて

～武岡台デイサービスセンター～



社会福祉法人 恩賜財団 済生会支部 鹿児島県済生会
済生会鹿児島地域福祉センター

〒890-0031 鹿児島市武岡5丁目51番10号

TEL.099-284-8250 FAX.099-284-8252

□ <http://www.saiseikai-kg.jp>

2015

vol.12

SUMMER

鹿児島における済生会実践論 1.

～鹿児島県民のいのちを護る拠り所「済生会」をめざして～

この4月から済生会人の仲間入りをし、済生会を評価し意見を述べる外部の立場から、評価され選択される立場になって2か月以上経過しました。

最近改めて感じることは、済生会の認知度が低いということです。

「済生会？それは何ですか？」「宗教団体ですか？（済世会という宗教団体がある）」「病院や介護施設？それはどこにあるのですか？」「鹿児島には病院や介護施設が多いけれど、済生会のそれらは他と何か違うのですか？」などなど・・・。

生活困窮者自立支援法が施行され、積極的・能動的にニーズ把握に出向くことが必要であることから、先日、病気と闘いつつ社会生活に困っておられる方々も多いある団体に就任のご挨拶と済生会活動のご案内に出掛けました。そこでも代表者の方に「済生会？　　そういえばそのような名前の病院がありましたかね？」「生活困窮者の医療や福祉を使命とする組織とは知らなかった」と言われ、最も知っておいて欲しい関係団体の方々に済生会が認知されていない現実に愕然としました。

折しも国の政策動向から、わが国の医療介護福祉経営は、少子高齢社会と持続可能な社会保障制度の確保必要性を反映して、都会の高齢弱者をよりサービス量の多い地方へ移住促進という策により全国的な医療介護供給体制を総量規制の中で調整しようという方向性に併せ、社会福祉法人運営の医療介護福祉施設の量・質両面の競合を激化させ、明確な役割意識と戦略・戦術を持たない法人は国民から選ばれず、経営不振となり、淘汰されていく戦略が検討されています。後者は利用者にとっては歓迎できることであります。

一方で、近年、各種制度のはざまで困窮しておられる方々や種々の社会格差から発生した社会的困窮者が増加しています。済生会は、このような時こそ社会に貢献できる強みを持っているはずであります。この認知度の低さをみると、まだまだ鹿児島では、その強みがかならずしも県民の目や耳や心に届くほど十分に発揮されていないことを痛感しました。

済生会の使命は、原点である済生勅語の精神、施薬救療の理念を踏まえて、其々の地域で、現代社会における①生活困窮者の支援、②地域医療への貢献、③医療福祉の融合により総合的な医療福祉サービスの提供を図ることであることは済生会で働く人は皆が理解はしていると思います。

医療や介護福祉の現場では、無料低額診療やケアサービスやなでしこプランが実施されており、生活困窮者の支援事業に取り組んでいるから責任を果たしているという思いもあるでしょう。また、県内に2つの病院と13の介護福祉施設・事業所をつくり、地域医療や介護にも貢献しているという自負もあるでしょう。そのうえで、最近よく「済生会ブランド」をめざすという言葉を使います。しかしそれは単にこれら3つの使命を果たす事業をやっていることをもって言うのではなく、明治天皇が国民の幸せを願い、深い慈しみの心で、特に受療や福祉生活困窮者にお心を添わせ、勅語を発せられたことに始まる済生会の精神が、3つの使命を通じて十分に発揮され、人々の心に響き、人々がその意義・価値を評価してはじめてそれは「済生会ブランド」といえるのだと思います。

この稿をお読みの利用者・関係者の方々にも済生会の特徴を周囲の方々にもお伝えいただきたいのですが、それをお願いするには、まず済生会が、制度の狭間や社会環境の中で困っておられる鹿児島県民を、待ちの姿勢でなく積極的把握に努め、ネットワークを繋ぎ、済生会らしい仕事をし、広く広報し、県民の皆様へのいのちの拠り所として信頼され選ばれる済生会として進化することが先決であります。そのためには、全職員が常に済生会人として使命感と自負を持ち、鹿児島県済生会のビジョンを共有し、その具現化にたゆまぬ努力をせねばなりません。それらをめざしてすでに4月から内部改革が始まっています。

しかし、鹿児島県済生会が具体的に進化を遂げるには、利用者・関係者の方々の叱咤激励が必要です。利用者・関係者の皆様からの建設的な苦言・提言が済生会を育てます。忌憚のないご意見をお寄せいただきますようお願いいたします。

済生会は利用者・県民の皆様へのいのちを護るために存在するのです。

済生会鹿児島地域福祉センター 所長 吉田 紀子

特集

利用者様の素敵な笑顔に支えられて

～武岡台デイサービスセンター～

武岡台デイサービスセンターは利用定員55名の通所介護事業所です。遠くに桜島が望める明るく開放的なデイルームでは、利用者様の交流の場としてご利用いただいているほか、各種レクリエーションや理学療法士による運動機能向上訓練、あん摩マッサージなどを実施しています。お風呂は、天然温泉で夏場は露天風呂もご利用いただけます。武岡台デイサービスはいつも利用者様の素敵な笑顔で溢れています。



手芸のとき・・・

私がお手伝いするのは手芸です。うまく出来ないからと敬遠される方もいらっしゃいますが、特に女性の利用者様には熱心に取り組んでいただいています。折り紙やぬり絵など、個性的で完成度の高い作品も多く見受けられます。出来上がった作品を展示するなどしながら、利用者様の意欲を引き出すことが出来ればと考えています。

(介護福祉士)



機能訓練のとき・・・

デイでの機能訓練は、日常生活における活動性を高めることを目標に、やらされる運動ではなく利用者様が自主的に取り組めるマシントレーニングを重点的に取り組んでいます。

利用者様からは「ここで運動をすることが楽しみだよ」「足のむくみがよくなり、少しずつ足が強くなってきているよ」「孫のようにかわいい先生に元気をもらっているよ」などの嬉しい言葉をかけていただき職員の励みになっています。

(理学療法士)

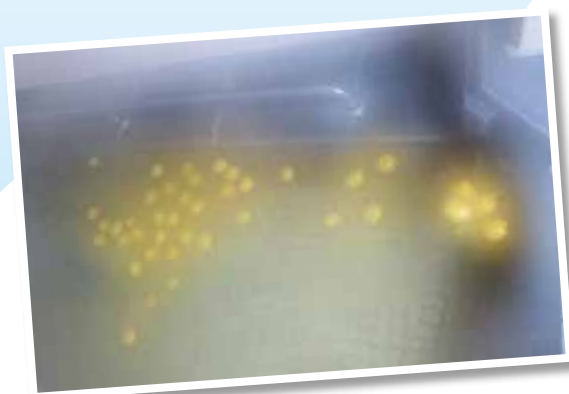


入浴時に・・・

「〇〇さあ～ん!お風呂入りましょうかあ～」洗髪・洗身のあと、湯船につかって「ああ～極楽、極楽」「ここの温泉はほんとに気持ちがいいねえ～」

今月の変わり湯は『レモン風呂』に初挑戦。効能は血行促進、スキンケア、殺菌・抗菌、リフレッシュ効果などなど浴室内に甘酸っぱいレモンの香りが広がり汗だくで支援するスタッフも爽やかな気分にな・・・。
レモンにはデオドラント(防臭・制臭?)効果もあるそうですよ!

(介護福祉士)



カラオケにて

(あるカラオケの一場面)
Aさんの歌を聞いていたBさんが、「昔を思い出すね」と涙を流されていた。Aさんが「自分の下手な歌で、泣いてもらって嬉しいな。Bさんも歌ってよ」聴き役専門だった少し恥ずかしがり屋の93歳のBさんはやさしい声で戦時中の歌を唄ってくださいました。その声は、か細く今にも消そうな音量でしたがとても力強く聴こえました。

(介護福祉士)



送迎時に・・・

先日、久しぶりに利用者のYさんをひとりで送ることになりました。不安が的中「Yさん道を間違えたかも・・・」「あら、ここは道が違うねえ～。大丈夫よゆっくり帰ればいいから・・・」Yさんからゆったりした言葉で優しく声を掛けて戴きました。おかげ様で慌てることなく無事送り届けることが出来ました。利用者様から「大変ねえ」「ありがとう」などなどたくさんのありがたい言葉をいただいています。

(看護師)



紫陽花

ケアハウスに入居の〇様
武岡台デイをご利用のお嫁さんといっしょに前庭をお散歩中のところをパチリ。

※紫陽花の花言葉

白色の紫陽花・・・「寛容」
ピンクの紫陽花・・・「元気な女性」
青色の紫陽花・・・「辛抱強い愛情」
日本では小さな花が寄り集まって咲いている姿から「家族団欒・家族の結びつき」



中庭も気分もリフレッシュ！

▶ 特別養護老人ホーム高喜苑

梅の実もたわわに実り始めた5月中旬、武岡地区の民生委員の皆様の中庭の花壇と芝生の手入れをして頂きました。草刈や花の苗などを植えて頂き、寂しかった花壇には鮮やかな花たちが増え、芝生もきれいに整えられさっぱりしました。以前からあったアマリリスの花も、存在を主張しているかのように、赤く生き生きと咲いていました。

綺麗になった中庭をぜひ利用者の皆さんにも見て頂き、天気の良い日の屋下がり散歩や日光浴をしました。花を見て、花に触れて、風を感じて、匂いを感じて、「かわいい花があるね」「赤くて大きいね」「外は気持ちがいいね」などという言葉が聞かれ、大変喜ばれました。

ボランティアの皆様、暑いなか本当に有難うございました。季節の変わり目、体調を崩しやすい時期ではありますが、夏にむけて利用者様と元気にそしてたくさんの笑顔で生活が送れるように過ごして参ります。



消防署と連携して消防訓練

▶ シルバーフラット武岡台

ケアハウスでは、鹿児島市西消防署と連携して、鹿児島湾を震源とする震度5強の直下型地震発生直後の福祉施設火災を想定した消防訓練を行いました。

7月1日の国民の日常生活を脅かす災害発生の防止を図るために創設された「国民安全の日」に実施した訓練には、各分隊から出動した消防車両のほか、西署から指揮車・救助工作車・梯子車・救急車など特殊車両8台が集結。

梅雨時の悪天候の中、自衛消防隊員や消防隊員による避難誘導のほか、梯子車による要救助者の救出や一斉放水など本番さながらの訓練にいつものどかな武岡台が緊張した雰囲気になりました。

西消防署の中村剛署長は講評で、日頃からの訓練を通じて防災意識を高めることが大事とあいさつ。入居者からは、具体的な避難方法などについての質問があり、改めて訓練の大切さを認識しました。



美術倶楽部が発足

▶ シルバーフラット武岡台

ケアハウスが入居者の介護予防を目的に開校している「武岡台学校」には、音楽・映画・書道・陶芸の4つの倶楽部がありますが、本年7月から新たに「美術倶楽部」が発足しました。

毎週土曜日の14時から5階クラブルームで開催されるこの倶楽部は、従来から入居者4～5人が自主的に実施していた「絵画同好会」の参加者が10名を超えたため主催者からの要望を受けてこの度5つ目の倶楽部として発足することになりました。



生活困窮者支援事業 なでしこプラン

済生会は生活困窮者を支援する事業「なでしこプラン」実施しています。ホームレスや家庭内暴力(DV)被害者、刑務所出所者、障害者、高齢者、在留外国人等で、医療・福祉サービスにアクセスできない人たちを対象に巡回健診、予防接種、健康相談等を行うものです。

済生会は、生活困窮者を医療で救済する「施薬救療」を目的に発足しました。

その目的を果たす制度が、生活保護受給者をはじめとして低所得者の医療費を免除または減額する「無料低額診療(無低)事業」で、本会は医療施設を中心に広く展開しています。

しかし、現実には、こうした社会保障制度の対象とならない人、例えばホームレスや所得が基準より少しだけ多くて生活保護の対象にならない人、あるいは少額の国民年金だけで生活しているお年寄り、着の身着のまま避難したDV被害者、更生保護施設で社会への復帰を目指している人等もたくさんいます。

社会経済環境の変化に伴い、経済的困窮や社会的孤立などが深刻化しているのです。

そこで、無低事業の対象者より広く、医療・福祉サービスにアクセスできない人々を支援しようとスタートしたのが、本会の紋章を冠した「なでしこプラン」事業です。

平成22～24年度の3年間で、延べ316,207人を対象に無料で健康診断やインフルエンザワクチンの接種等を行いました。

(社会福祉法人恩賜財団済生会HPから転載)



新しくなった4代目の済生丸

岡山、広島、愛媛、香川4県支部が運航する日本唯一の診療船。
瀬戸内海67の離島を巡っている。



委員会インフォメーション

地域連携委員会

世界の子供たちにワクチンを！

5月15日、福祉センターが環境エコ活動の一環として進めているエコキャップを薩摩川内市の受付窓口に寄付しました。

2回目となる今回は、スタッフのほか、利用者やそのご家族、民生委員の方々など活動に賛同いただいた多くの皆様のご協力により28,466個(66.20kg)をお届けすることが出来ました。

エコキャップは「認定NPO法人世界の子どもにワクチンを日本委員会」(JCV)に寄付され、六大感染症といわれているポリオ・はしか・結核・ジフテリア・百日咳・破傷風のワクチン購入に使われます。

福祉センターでは、引き続きエコキャップと古紙の回収を行いますので皆様方のご協力をお願いします。

〈お問い合わせ〉

済生会環境エコプロジェクトかごしま

TEL099-283-6870

※写真は「世界の子どもにワクチンを日本委員会」HPから



済生会物語へその七

銃後診療

昭和十二年七月七日夜半、北京の南西十五キロの盧溝橋付近で日中両部隊の衝突が起こった。同月十九日、国民政府の蒋介石委員長は、ラジオを通じて「盧溝橋こそ、まさに国の興亡を決する一戦である」と放送。ここに、これから八年間に及ぶ日中戦争の戦端が切つて落とされる。

当時、大陸の前線に対して、日本内地は「銃後」と呼ばれていた。済生会は「銃後診療」をスローガンとして、出征軍人の家族並びに遺族に対する優先診療を開始した。

済生会では日中戦争勃発と同時に、各都道府県知事及び東京市内の済生会直営病院(のち全国施設)に対して次の通牒を發した。

「今事変ニ依ル出征軍人遺家族等ノ医療ニ関シテハ、本会事業ニ於テモ該当者ハ一般患者ヨリモ優先的取扱ヲナシ、又其ノ無料診療ノ資格条件ヲ実情ニ即シテ、出来得ル限り緩和スル等ノ方針ニテ実施スルコト」

鹿児島診療所(昭和五年設立、現・鹿児島病院)では、県庁と協力して指宿町など県内十ヵ所で済生会の「銃後診療説明会」を開催し、徹底を図った。

大陸戦線の拡大とともに、恩賜財団済生会は銃後の済生会に二変した。昭和十二年七月から四年間に全施設が取り扱った応召家族の患者数は延べ三百二十五万人を超えるのである。

(「済生会物語」(堀賢次著)から転載)

〈基本理念〉 「救療済生」の済生会精神に則り、福祉に貢献する。

〈基本方針〉

1. 私達は、利用者から信頼され、満足していただける介護・福祉を目指して、常に利用者の立場に立ち、利用者の気持ちになって介護を行います。
2. 私達は、利用者の権利を尊重し、その意思に添えるよう努めます。
3. 私達は、常に利用者の安全に気を配り、安心して介護が受けられるように努力します。
4. 私達は、最新の介護知識や介護技術の習得に研鑽します。
5. 私達は、地域の人々と交流を図り、人々が求めている要望に応えられるよう努力します。

〈利用者の権利〉

1. その人格を尊重される権利があります。
2. 社会的地位・国籍・人種・宗教・性別などにより差別を受けることなく、公正・平等に介護を受ける権利があります。
3. 自分が受けている介護に関するすべての情報について知る権利があります。
4. 自分に関するすべての個人的情報を守ってもらう権利があります。

特別養護老人ホーム 高喜苑

〔介護老人福祉施設・短期入所生活介護事業所〕

〒890-0031 鹿児島市武岡5丁目51番10号

TEL 099-284-8253 **FAX** 099-284-8252

シルバーフラット武岡台

〔軽費老人ホーム／ケアハウス〕

〒890-0022 鹿児島市小野町2427番地2

TEL 099-283-6870 **FAX** 099-283-6871

済生会なでこの杜

〔サービス付き高齢者向け住宅〕

〒890-0022 鹿児島市小野町2427番地2

TEL 099-202-0710 **FAX** 099-283-4733

指定居宅介護支援センター高喜苑

〔指定居宅介護支援事業所〕

〒890-0022 鹿児島市小野町2427番地2

TEL 099-283-4737 **FAX** 099-283-4733

グループホーム武岡5丁目

〔認知症対応型共同生活介護事業所〕

〒890-0031 鹿児島市武岡5丁目16番23号

TEL 099-282-6081 **FAX** 099-283-3533

グループホーム武岡ハイランド

〔認知症対応型共同生活介護事業所〕

〒890-0022 鹿児島市小野町2427番地2

TEL 099-283-7231 **FAX** 099-283-7232

武岡台デイサービスセンター

〔指定通所介護事業所〕

〒890-0022 鹿児島市小野町2427番地2

TEL 099-283-6880 **FAX** 099-283-6872

デイサービスセンター 高喜苑

〔認知症対応型通所介護事業所〕

〒890-0031 鹿児島市武岡5丁目51番10号

TEL 099-284-8254 **FAX** 099-284-8255

なでしこ訪問看護ステーション

〔指定訪問看護事業所〕

〒890-0022 鹿児島市小野町2427番地2

TEL 099-281-9292 **FAX** 099-283-4733

ホームヘルプステーション 高喜苑

〔指定訪問介護事業所〕

〒890-0022 鹿児島市小野町2427番地2

TEL 099-283-6875 **FAX** 099-283-6876

済生会サポートセンターなでしこ

〔定期巡回随時対応型訪問介護看護事業所〕

〒890-0022 鹿児島市小野町2427番地2

TEL 099-283-6875 **FAX** 099-283-6876

訪問入浴センター 高喜苑

〔指定訪問入浴介護事業所〕

〒890-0022 鹿児島市小野町2427番地2

TEL 099-283-4731 **FAX** 099-283-4733

訪問給食センター 高喜苑

〔鹿児島市委託事業所・配食事業〕

〒890-0022 鹿児島市小野町2427番地2

TEL 099-283-4730 **FAX** 099-283-4732

鹿児島県済生会

〔支部〕

〒892-0834 鹿児島市南林寺町1番11号

TEL 099-216-2332 **FAX** 099-216-2333

編集 後記

薩摩に「男は三年片頬(かたふ)」という諺があります。いつもにこにこしていると威厳が損なわれるので三年に一度片頬だけで笑えということらしいです。今回の特集では、利用者様からたくさんの素敵な笑顔をいただきました。これからも和気藹藹(あいあい)とした和やかな雰囲気の中で笑顔溢れるデイサービスを目指します。どうぞよろしくお願いいたします。